

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 開講期間   | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 後期     | 2   | 2   | 必修     |
| 担当教員   |     |     |        |
| 橋本 勉   |     |     |        |
| 木2、金3  |     |     |        |
| 添付ファイル |     |     |        |
|        |     |     |        |

|          |   |
|----------|---|
| 科目の概要    | 解剖生理学では、正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル・細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学びました。<br>病態生理学では、さまざまな病気の成因や発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化、病態評価や診断・治療の基本的な考え方を学び、病気とはどのように発生し変化していくのかを全身的・総合的に学修します。<br>病態生理学 I では、教科書の前半、疾患の診断と治療の概要を学んだ後、栄養・代謝疾患、内分泌疾患、消化器疾患、循環器系疾患、生活習慣病について学修します。  |
| 授業の内容    | <p>第1回 はじめに<br/>解剖生理と病態生理について（復習）<br/>第16章 加齢・疾患に伴う変化 より</p> <p>第2回 第1章（1）<br/>診断のための身体診察と検査（1） 身体診察（pp. 14～23）</p> <p>第3回 第1章（2）<br/>診断のための身体診察と検査（2） 検査-1（pp. 23～33）</p> <p>第4回 第1章（3）<br/>診断のための身体診察と検査（3） 検査-2（pp. 33～39）</p> <p>第5回 第2章<br/>疾患の治療（pp. 40～49）</p> <p>第6回 第3章（1）<br/>栄養・代謝系疾患（1） 糖尿病（pp. 50～62）</p> <p>第7回 第3章（2）<br/>栄養・代謝系疾患（2） 脂質異常症、肥満、Mets（pp. 62～74）</p> <p>第8回 第3章（3）<br/>栄養・代謝系疾患（3） 高尿酸血症、先天性代謝異常（pp. 74～84）</p> <p>第9回 第4章（1）<br/>内分泌系疾患（1） ホルモンの特徴と調節システム、脳下垂体異常（pp. 85～88）</p> <p>第10回 第4章（2）<br/>内分泌系疾患（2） 甲状腺異常、副甲状腺異常、副腎異常（pp. 88～95）</p> <p>第11回 第5章（1）<br/>消化管疾患（1） 口腔～上部消化管の疾患（pp. 96～105）</p> <p>第12回 第5章（2）<br/>消化管疾患（2） 下部消化管疾患（pp. 105～113）</p> <p>第13回 第6章<br/>肝・胆・膵疾患（pp. 114～132）</p> <p>第14回 第7章（1）<br/>循環器系疾患（1） 心不全、動脈硬化、虚血性心疾患（pp. 133～141）</p> <p>第15回 第7章（2）<br/>循環器系疾患（2） 高血圧、不整脈、肺塞栓、脳血管障害（pp. 142～154）</p> |
| 学習到達目標   | 主要疾患について、その成因、発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化を理解する。<br>各疾病の病態評価や診断・治療の基本的な考え方を理解する。<br>各疾病と代謝・栄養とを関連づけることができる。  |
| 授業の方法    | 教科書に沿って、プロジェクターを使用し、講義形式で授業を進めます。毎回小テストを行い理解度を確認します。  |
| 成績評価の方法  | 定期試験（80%）、小テスト・授業態度（10%）、課題（10%）により総合的に評価します。   |
| 教科書・テキスト | 「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版」、田中、宮坂、藤岡編、羊土社、2015<br>適宜、参考資料を印刷して配布します。   |
| 参考書      | 「栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版」、本田、土江、曾根編、羊土社、2016<br>「栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第3版」、志村、岡、山田編、羊土社、2020<br>「わかりやすい病理学 改訂第6版」、岩田隆子監修、南江堂、2016<br>「臨床医学概論 第3版」、福井次矢・小林修平編著、建帛社、2012   |

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 授業時間外の学修について（事前・事後学習について） | 2単位の取得には90時間の学修を必要とし、授業（30時間に相当）に出席する以外に60時間（実時間で180分×15回）の自修が義務付けられています。使用する教科書の該当する範囲を予習し、重要と思われる項目を整理して授業に臨み、授業後は、配布された資料等を含め授業内容を復習してください。 |
| 履修上の留意事項                  | 日頃から人体のしくみと働き、さまざまな疾患について関心を持ち、基本的な知識を身につけてください。   |
| オフィスアワー                   | 金曜日の昼休みは、原則、研究室に待機しています。他の時間帯の訪問は、事前連絡をお願いします。   |
| 実務経験                      | 放射線診断医として診療に従事（昭和54年～平成25年）  |
| その他                       | 授業中、積極的に発言・質問してほしい。私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。   |